

# 弥次喜多飲み歩記

池の脚はかき捨て、飲升屋の脚もかき捨てとばかり、。渡世。の特集にこと寄せて、  
髪長族一人と高校生もヒキ一人がコンビを組んで、釜の中をホンのチヨッピリ飲升歩  
いて見ました。

髪長族の兄さんは、釜はあまりきたことかないのですが、それでも皆さんのフトコ  
日勘定をして升たり、再度挑戦するほどと宣言したりを、えらく好みにい、たようです。  
先ずは、髪長族の兄さんの感想文から、その次に高校生もヒキの感想を御笑覧願ひ。  
飲升歩いたのは五月三日から五日の三日間。

## ほんの少しの飲みやめぐり

堺、竹條田 修

どこにはいってても、学生かつときかれるの  
で、不思議に思、こいると、どうやら後でめ  
か、たことだが、すぐ若く升えるらしい。  
いくつに見えるかときくと、十八、九だと  
い、それる二十六だと言、ても信じられない  
想をするのだ。

酒を飲みに行くのに若い人がいれないのかと思  
っていたら、若いもんは喫茶店を好むようだ。  
それと、も、と別の所へ行くのか？  
正立屋のチエーン店、やすい屋、ことぶき  
屋と、ゆずか皿、五軒しか寄、ていないが、  
それとい、てオモシロイというのは、オカマ

がたむろしてゐる安け屋が。ただし、こちら  
らは、外から来たモノなのでよく判からずじ  
まいだった。

一級がだいたいいろ四、ウイスキーを置いて  
いる店もいくらかあった。オカマはほぼ100円  
から、安いものでも50円、30円、20円、10円  
を半分売りするので、50円といえども大切な  
オアシスだ。

この店にも常連が多いため、一見さんを入  
りにくい。それも、ホケなんかが顔を出す  
と、物珍らしく、話かけたいかのように目く  
ばせしてくることが多かった。だからとい、  
て、こちららに共通の話題もないので、黙、  
て聞いていくしかない。

飲升屋にも階級があるかのように、サラリ  
ーマニの行く所、アングの行く所、ヒッピー  
の行く所、重役の行く所等々決ま、てい、るよ  
うだ。

同じようなことか言えると思うのだが、入  
ったことのない店を飲むというのはい、るよ

いうことがある。ついついペースが早くなる。  
おろつかないせいだろうと心に決めていても、  
やはり楽しむワケにはい、かない。その上は、  
全く別世界のよう、な所を飲むのだから、カタ  
のこることはげ、れい、はげしい。

細田 幸平作詞というウタを一緒に。

一杯飲み屋を 安酒をあみ、て  
それと 毎日毎日  
忘れられるというのなら  
僕も 有金の  
すべこそ はたいて

ガラスの口者、がけまいくらか知らな、いの  
だが、仮に四千円  
としようか、仕事  
も少ないし、毎日  
出られるワケはな  
い。週に二、三回  
も出ればオシ、の字

ハリキョール、アルコ  
ールに砂糖、種相性香  
料などを混ぜて製する。  
ヤパーミント、アブサ  
ン、モウソウなど、

か。とすれば、週に約一万円、ドマ代ザ園に三千六百円、メミ代をさし引けば、一日にたいして残らないの。日に五百円も飲み屋に便えろのなら、千ユーを三杯も、かければ、アテも万、て、これは酔えるのだ。十円玉が落ちていれどもうけもの。五枚集まれば、シヨウチ。ウ半分飲めるのだから。ドマ代払うくらいなら、シヨウチ。ウをひっかけて、アオカシして、る方がいれもあるだろう。季節的には、これからがその時期だ。

# 学生扱いは、れなければもっ、といい

高校生もどき

。席の持集にこと喜せ、飲みに戻ることにしたが、なんせ金で飲むのは初めこの二人、まぶら敬情視察が助ると、五月三日の夜十時半頃、万そろそろ金に出るといなりましたが、以外と金の夜は早く、ほとんど店がしま、ていた。

口したあげく、意をぼして蘇るんだのが、成層裏の公園の北側にある。ことびき屋。ことびき屋。運らし人が四人、この多型の刀ウニタに止ま、ては、たので、二人は一番スミッコに入、て時をみちつけ、何としまし、うと何かしたのに対して、いきが、て。池、ヒヤ

。などと注文した。コッスに注がれた酒は「酒豪」という銘柄がありました。

二人が入、たに、日人の少しシーンと、た店も、私ら二人が猫の話なんぞして、互に、そのうち返事を期待するように、目をこちらに向け、話を投げかけてくる。なんとなく受け答へが、た。

四、五人の女性と同持した経験を持つ、というアキラさんは、一掃に寝ているが、オナラをして、山た時、ら、確しいことは、甘い。ホケの側にいて、定めて、いるから、オナラが出るんやから、どういう時は、ニオイを連さ、口いようにして、カヤにいく。オナラだ。ちなみに、オナラをして、山た女性は、二人と、こ

アイリン銀行に一〇〇万円以上の貯金があるというオジサン。一〇万円越えるのが一番大変や、た。朝人出、て、その日の夕方に出した行、たことを、と、その苦境を語、て、これ

たり、アイリン銀行は商店の奴らの貯金進出に、利甲さ出ている、ヒフンガイしたあ、一〇〇万円以上の貯金をした者は、銀行の特典があるという目よりな話を聞かせてくれた。本当かしら？

ここまは良かった。楽しくお話をさせてもら、たのですが、そのうちニイキ。なら学生やろ、とこう言いました。マア、多分言われるだろうと、覚悟はして、たのですが、初日からやられるとは思わなかった。

後日、中校や革マルがどうした、という話や、奥岩重吉がその店の前の公園で、女のミラミを取、て、たど、た、女に食わせてもら、て、いたという、なにやら学生さん向けのお話になり、私が古川から仕事へ出たことや左官の手元など、た話を

をして、た、た、と、学生やろ。やれやれという感じ。シヤンター

へ老酒、中国産の醸造酒の総称。古い物ほど貴ばれるためこの名がある。紹興酒が有名。

もしまりかけたので、一足先にも帰るといなりにはりてあります。

店にはオバチャンとオネエチャンへ推定一八二ニオシがいて、オネエチャンの客あしらいは思事がありました。この店、ジュークでなく、ブルーヤードレコードをかけた。

### 安い屋本店でついにダウン

二日目は、二人に与えられた任務、足立屋チヤーン店巡りと安い屋本店見学結果すべく其所にてウキスキーを千ピ千ピやりながら打ち合せしたあと、山王町にある足立屋二番店へ。

足立屋二番店では、成金娘をやはりヒヤヒヤ飲んで、立つて飲むのになれてなく疲れるので、安い屋に行こう、と出たのですが、歩いていくうちに毎々ミニトクは、て、安い屋のちよ、と扉にある基金会所へ休み。将棋を一回、易を一回、オウとも無茶苦茶な手を入れた。まわりで打てる人を、それとなく見

あの注文のやり方、テレビや映画を見て、一度はやって見たいと思つていたものさ、念碑がかない本場に斬りかかった。

二杯目を半分ぐらい飲んだ頃に石井守の屋に登場。それを度、匂やら急に酔いずまわり、オウオウ悲しい歌がキ、ああ、夜にたつても帰れない、なんて曲がかか、た時に、この歌は、ぱり宮城まり子が歌うのかよ、ろしな、なんていうと、横の髪長族が、これ歌うてんの宮城まり子やがな。エエッ。

ともかく、その頃から、歌を口ツカミながら、上半身がカウンターにかぶさり、時々顔を上げると、アオカン氏が酔うたらアカン、酔うたらアカン。それをモウロウと聞くと、安い屋の見学もクソモロ、ともかく飲まされてしまったのだ。

そのあとの記憶は全くなく、後で聞くと、ムツケキ野郎に抱きついたり、路上に店を広げたり、大変だったようさす。

すると、やはり半運ばかりのようさ、打ちながら仕事は情報交換が盛んにされてた。

さていよいよ本命の安い屋。ほんせ始めの甲が真黒にススケたアオカン氏が座、これは、私の顔を見ながら、レギリと、着音届はいい、と言いはるもんやさかには、こっちもその時になつてジュークにお金を入出、河内十人斬りやら大羽根月夜なんが在りクエストして、歌謡曲は良歌のインタールであると言

かが言、たほどとウケあげながら、一度や、てみたと思つてた、ヒジをカウンターにつけ、コッスを親指と人差指でぼさんる持ち上げ、野く振り、サケ、という注文の仕方二枚目を注文。

### アంత夜校生ゆる

三日目は、もう前日の酒がた腹がこ腹がガシカン、とこもじゃなけと酒なんが飲む気分になれなく、今日はやめようよ、と髪長族に懇願したのですが、彼はやる気満々、イヤこんな日にこそ飲まないと酒は強くなれなると無理矢理ム、ぱり出された。

### 屋四番店

もう酒をヒヤで飲む元気なとカラになく、ビールを千ピ、千ピ。足立屋ほどの店でもテレビが置いてあるのかしらん、ほどと思いはがら、ポケーッと画面をながめていた。しばらくすると、コマ鼠のようなオジサンが若いガッシリしたニイチャンを連れ来て来て、飲め飲め。

ニイチャン 凍ヤ  
うながら、ニゴリ  
酒を一杯、飲まつ

へどぶろく、凍(かす)を凍さばい日本酒。  
にこりさけ(濁酒)

がずにああ、で、後、ヒヤとチビチビとワリ  
始めた。コマ留氏、下地が入、こいたように  
しきりと一人でシャヤッていたが、そこへ、  
角刈、薄いサンクラスのアニサンが子供を連  
州へ入、て来た。その子は足立四番店の子供  
らしく、そのアニサン、店番をしてゐる夫婦  
にその日の子供の行動を報告してゐた。子  
供はイヤネ。

その日は、丁度子供の日は、たので、アニ  
サン、子供のために金太郎の人形を買、こや  
、たらししが、それまで、よく店に飾られる  
と、コマ留氏、この金太郎の顔よくない日、  
泣いてゐるやないか。

最初は、子供が軒に入、て、こゝろんだか  
ら、いけさしよ、口んて軽くいなしてアニ  
サン、おまりしつこくからくるるる、つ  
いた、同じ働人だ。それ以上からまなひで下  
さい。お預けします、と言葉は丁寧だ。だが、  
コマ留氏をジッと見おろして、ついに産も  
低く、折柄のさいに、いれゆるドスのきいた

ありました。  
この日はどういふわけかオバキヤニが多く、  
他にモニ、三人居てはりました。そのオバキ  
ヤニ、はたやら時々こちらの穴を、キョット  
困ったような顔して、キラ、キラッと見はる  
んで、こちらにもなるべく視線を右側をないさ  
うにして盗み見ていたが、アニコラの横浜や  
山谷の体験談、あるいは北海道へ行こうと思  
つてるといふ話に、私の右横に座、こいた人  
が、口をばさんだりして話が賑、てきたら、  
オバキヤニから話しかけてきた。

ちよ、と面白くはな、アニタウ高夜生とち  
がうか。  
この日は、色々オモシロイ酒の飲み方を知  
りました。五の口出して焼酎を半分飲む。  
焼酎をサイダーで割、て飲む。ウキスキー  
をビールで割、て飲む等々。

安川屋の番頭さんだか店主だか知らひけ  
と、ともかくカウー、コニコニする人は、

声というやつを警告をされた。  
いや、さか、た。まるる管原文太の案簿が  
ころみだいたった。更眠映画タタ見したよう  
口俣した気がしましたね。

警告を寄せられたコマ留氏も、アニサンが  
帰、たあと、しきりと、アイツは相当年季が  
入つてゐる。エエキ、赤や、と感心し、まる  
る自分かそう言ひれたかのごとく、あるいは  
自分か同じ渡世人を、アニサン的人物鑑定を  
してや、たといわんばかりに一人ニコニコ言  
んでゐた。

コマ留氏に口ひささがケンテリしたが、と  
もかく映画のタタ見を早くし、再度安川  
屋へ挑戦におも向くことにした。  
も、とも、二人だけで行くのは、ヤロリと  
ちらがかへ主に私の方で酔いつぶれた時  
に頼り口ひさ、アニコラをさぞ？ていつた  
だから、おまり勢いはよくない。

この日も奥まふ入川中、人口にキョコンと座  
った。斜め前は、前日と違、てオバキヤニで  
用の日口、客はようけ入るが、おんなは腰を  
ちつての回数が悪くてさ、ぱりや、とボマリ  
たり、酔、てフラフラと入、てくるオバキ  
ヤニを、今日は両やからダメやる、おんなを押し  
出した。何かがダメなのか今も、それからは  
いざ、色々忙しそうだ、た。

二日酔いの際に無理して飲んだら、酒が強く  
出るというのが本音がウソか、また、長長  
と減した行きたいと思ひますの、よろしく  
お預けします。

最後に、前後不  
変になるまぶ酔州  
してくれた釜に汗  
して、有難う、を  
言つておこう。

ヘカストリ、酒粕  
を原料として作る焼酎。  
②米またはイモから蒸  
造して粗悪な酒。  
ヘバクダン、カソリ  
ニのドラム缶に焼酎甲  
アルゴールを詰めたと  
の。息にツンとくれば、  
オヤニはつあキルだ。